

6 3 6 1 - 1 3 2  
平成17年10月25日

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成17年度病害虫発生予察注意報第9号について  
平成17年度病害虫発生予察注意報第9号を発表したので送付します。

## 平成17年度病害虫発生予察注意報第9号

平成17年10月25日  
宮 崎 県

病害虫名 シルバーリーフコナジラミ  
タバココナジラミ バイオタイプQ

作物名 施設野菜類・花き類

1 発生地域 県下全域

2 発生時期 -

3 発生量 多

### 4 注意報の根拠

- 1) 施設トマトでのコナジラミ類(シルバーリーフコナジラミ・タバココナジラミ バイオタイプQ)の発生は場率50.0%(平年値28.9%)、百葉当たり虫数3.3頭(平年値0.6頭)とも平年より多である。施設キュウリでは発生面積率50.1%(平年値34.5%)、百葉当たり虫数4.0頭(平年値5.8頭)と平年並みの発生である。施設ピーマンでは発生面積率58.3%(前年54.5%)、百葉当たり虫数3.6頭(前年4.0頭)で前年と同様に多い発生となっている。
- 2) 本害虫は県内で問題となっているトマト黄化葉巻病の媒介虫であるため、注意が必要である。(トマト黄化葉巻病については注意報第10号を参照のこと)
- 3) ほ場での発生が多くなると、すす病により果実の汚れや品質低下の原因となる。
- 4) 向う1ヶ月の天候は、気温は平年並か高いと予想され(鹿児島地方気象台 10月21日発表)ており、媒介虫の活動・増殖に好適な条件は続くと考えられる。

### 5 防除上の注意

- 1) 本虫の侵入を防止するため、施設開口部には必ず目合い0.4 mm以下の防虫ネットを設置する。また、作業者の出入りにより侵入することがあるので注意し、コナジラミ類を誘引する黄色の服の着用はできるだけ控えるようにする。
- 2) 葉裏に寄生しているので、かけむらがないように丁寧に薬剤散布する。
- 3) 施設内には黄色粘着板を設置し密度の低下を図るとともに、粘着版に誘殺が確認された場合は、すぐに殺虫剤の散布を行い徹底的に駆除する。
- 4) 両種の肉眼での識別は困難であるが、タバココナジラミ バイオタイプQについては、いくつかの薬剤の効力低下が確認されているので、薬剤散布後の効果には注意をはらい、効力が劣る場合には追加の防除を行う。  
また、薬剤抵抗性の発達を防止する観点から、同系統の薬剤を連用しないようにする。
- 5) 効果のある薬剤等防除その他の詳細については、病害虫防除・肥料検査センター、総合農業試験場生物環境部、各農業改良普及センター等関係機関に照会すること。また、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努める。

《連絡先》  
病害虫防除・肥料検査センター 興梠  
TEL: 0985-73-6670 Fax: 0985-73-7499  
E-mail: byougaichu-hiry@pref.miyazaki.lg.jp